



## プレスリリース

### 令和5年度草の根・人間の安全保障無償資金協力：

#### マルマシェン村情報技術センター設立計画 供与式の実施

エレバン：令和7年5月29日

---

令和7年5月29日、草の根・人間の安全保障無償資金協力「マルマシェン村情報技術センター設立計画」（供与限度額：71,225米ドル）の供与式が、新設された情報技術センターにおいて開催されました。本式典には、青木豊駐アルメニア日本国大使、アマリヤ・イエゴヤン「ギュムリ情報技術センター」科学教育基金代表、ティグラン・ティグラニャン・マルマシェン村長、サロ・ホヴハンニシヤン・ヴァフラマベルド村長が出席したほか、政府関係者やナゴルノ・カラバフから避難した生徒等が参加しました。

本事業はシラク州アヒュラン地域マルマシェン村に情報技術センターを建設することにより、同地域内37校の生徒3,779人が政府の定めたカリキュラムに沿った情報教育を受講できるようにするものです。同村は首都から約120キロメートル離れた山間部にあり、都市部と比べIT教育環境が未整備で、政府が必修化した情報教育の授業を行うことができませんでした。そのため、農村部の生徒は相対的に所得の低い農業に従事することが多いのが現状でした。本事業により、生徒たちは、Webデザインやプログラミング等IT業界への就職に不可欠な知識を無償で習得することができるようになります。同センターでの情報教育は、都市部との教育格差解消のほか、就業機会の拡大にもつながることが期待されます。

アマリヤ・イエゴヤン「ギュムリ情報技術センター」科学教育基金代表は、「日本の支援で建てられた情報技術センターのおかげで、子供達が新しい機材でIT教育を受けられるようになり、将来の選択肢が増えます。ナゴルノ・カラバフからの避難民の子供達はとりわけ厳しい状況にありますが、IT知識を身につけることで、将来に対する希望が持てるようになります。我々が最も必要としていた支援を提供してくれた日本に、心から感謝しています。」と述べました。



祝辞を述べる青木大使



新設された情報技術センター



イエゴヤン代表（右）ら関係者との記念撮影



新しい機材がそろえられた情報技術センター内部